

照会先：

医政局医事課医師臨床研修推進室

課長補佐 井内

専門官 村重

電話 03-5253-1111

内線 2563、4124

「臨床研修に関する調査」報告 のポイント

厚生労働科学研究費補助金研究「新医師臨床研修制度の評価に関する調査研究」班及び「卒前教育から生涯教育を通じた医師教育の在り方に関する研究」班において、臨床研修に関する合同調査報告を行った。

平成 19 年 9 月 6 日

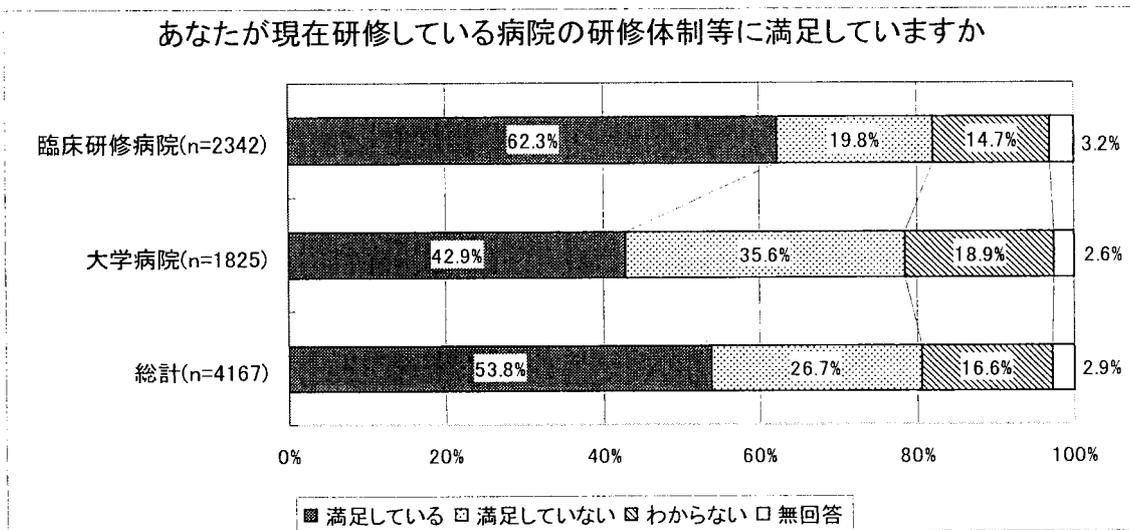
< 2 年次研修医への調査より >

1. 臨床研修体制・プログラムについて

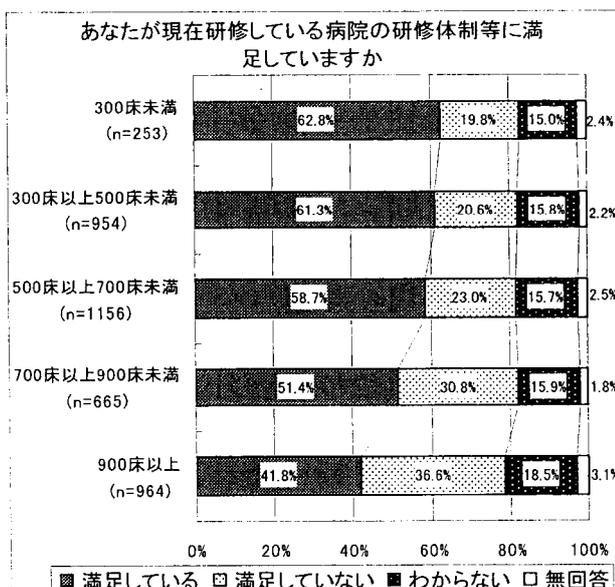
(1) 研修体制等についての研修医の満足度は、大学病院より臨床研修病院において高い。

昨年度（2 年次研修医）の満足度と比較すると、病床規模が小さい病院ほど満足度が高いという傾向が弱まっている。

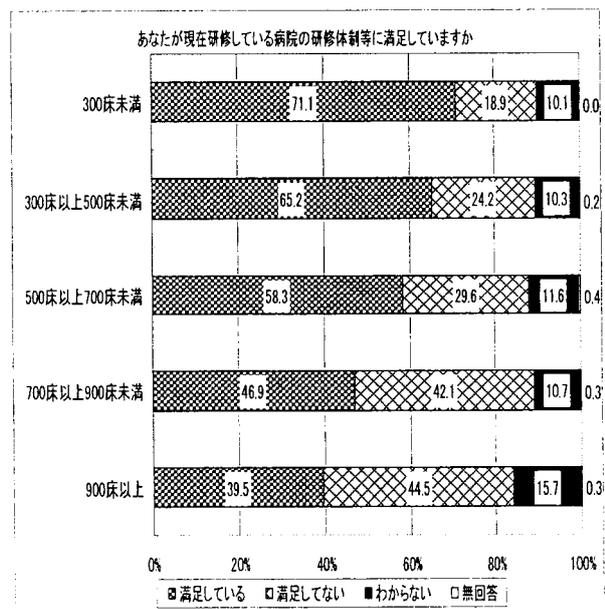
●平成 18 年度 研修体制等についての満足度（臨床研修病院 / 大学病院）



●平成 18 年度（病床規模別） 研修体制等についての満足度



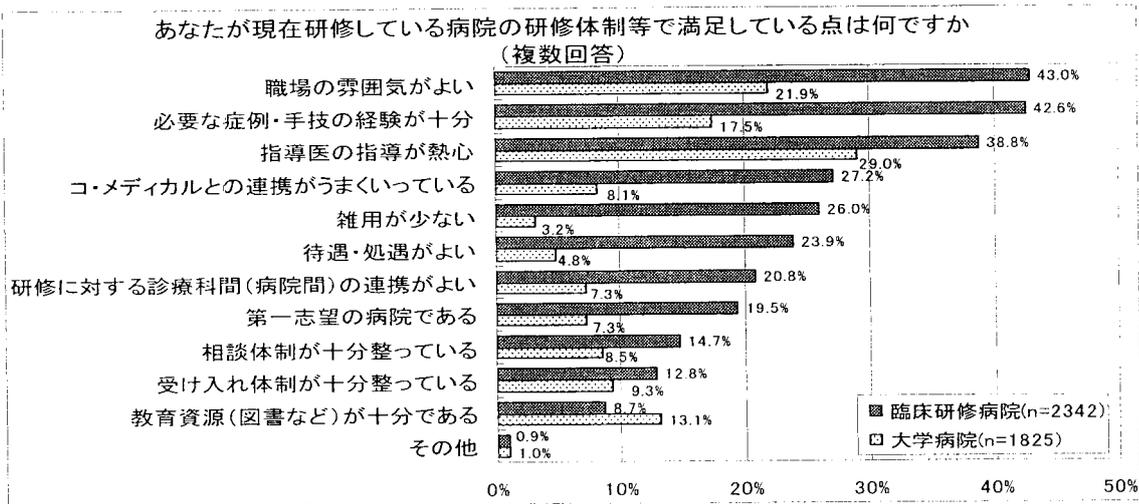
●平成 17 年度 2 年次（病床規模別） 研修体制等についての満足度



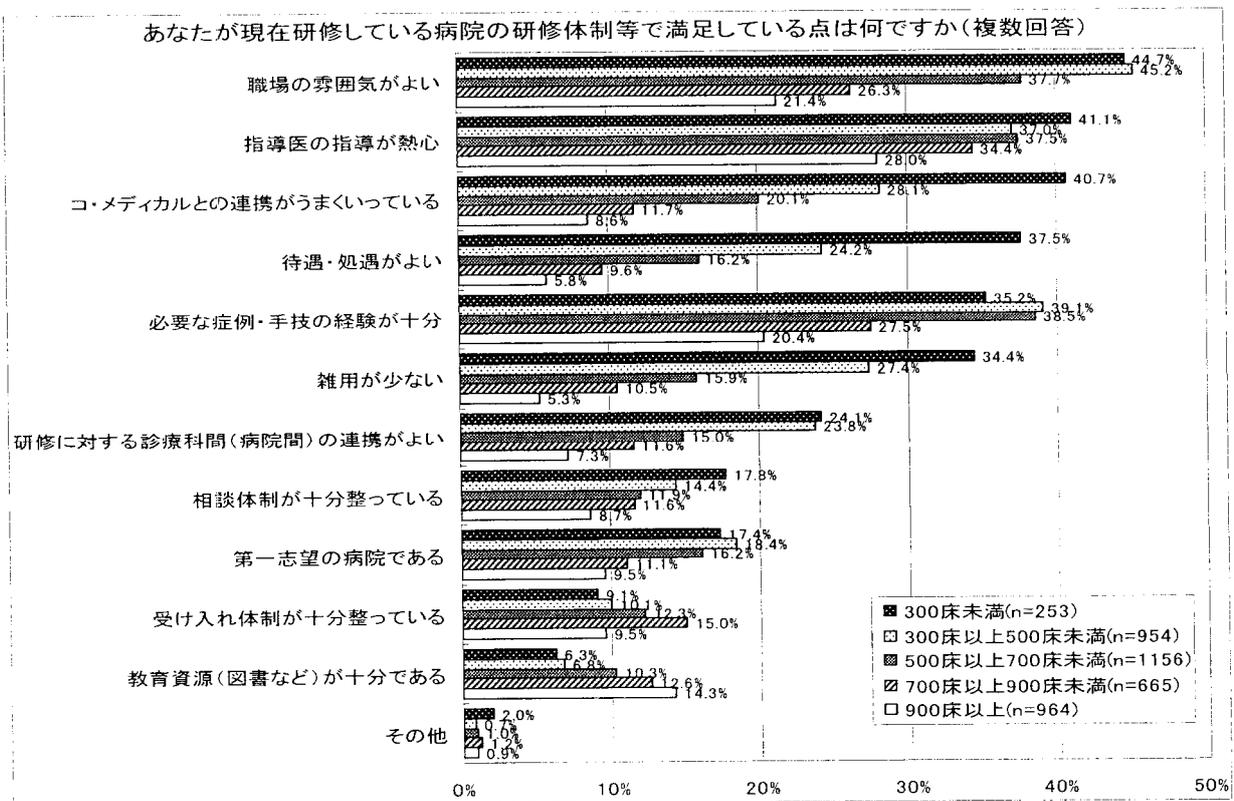
(2) 研修体制等で満足している点、改善すべき点

1) 研修体制等で満足している点としては、臨床研修病院においては「職場の雰囲気がよい」(43.0%)、「研修に必要な症例・手技の経験が十分」(42.6%)、「指導医の指導が熱心」(38.8%)、大学病院においては「指導医の指導が熱心」(29.0%)等が多い。また、病床規模の小さい病院において「職場の雰囲気がよい」等の点が挙げられている。

●平成18年度 研修体制等で満足している点 (臨床研修病院 / 大学病院)

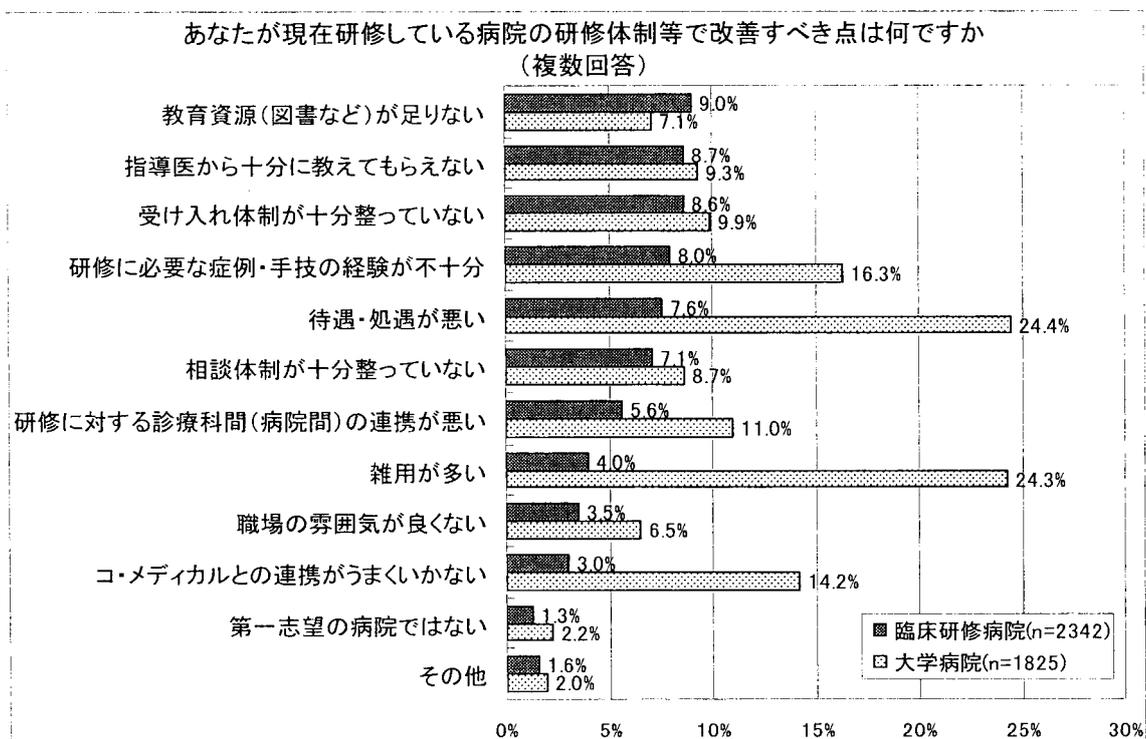


●平成18年度 研修体制等に満足している点 (病床規模別)

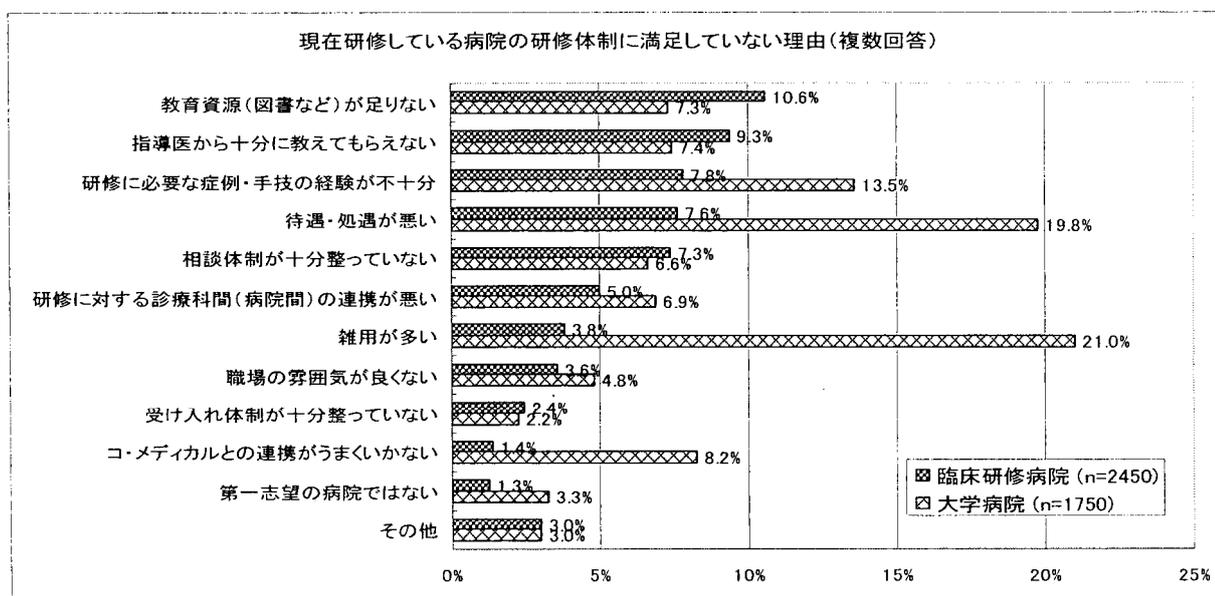


2) 研修体制等で改善すべき点は、臨床研修病院においては「教育資源（図書など）が足りない」（9.0%）、大学病院においては「待遇・処遇が悪い」（24.4%）、「雑用が多い」（24.3%）等が多い。

●平成 18 年度 研修体制等で改善すべき点（臨床研修病院 / 大学病院）



●平成 17 年度 1 年次 研修体制に満足していない理由（臨床研修病院/大学病院）

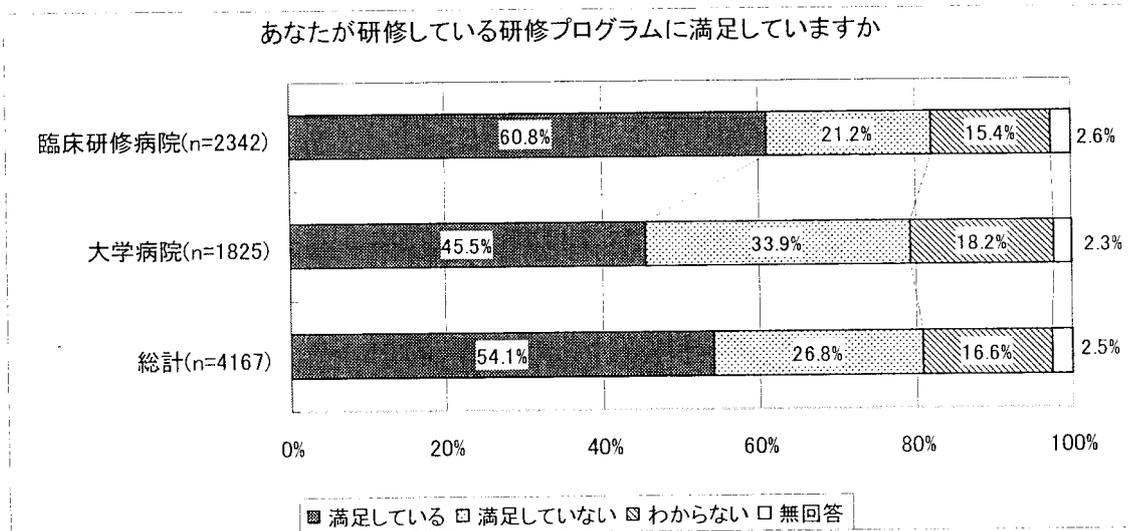


※平成 17 年度の調査票では、「満足していない」と回答した場合のみ理由を回答する形であったが、平成 18 年度の調査票では、すべての対象者が「改善すべき点」を回答する形となっている。

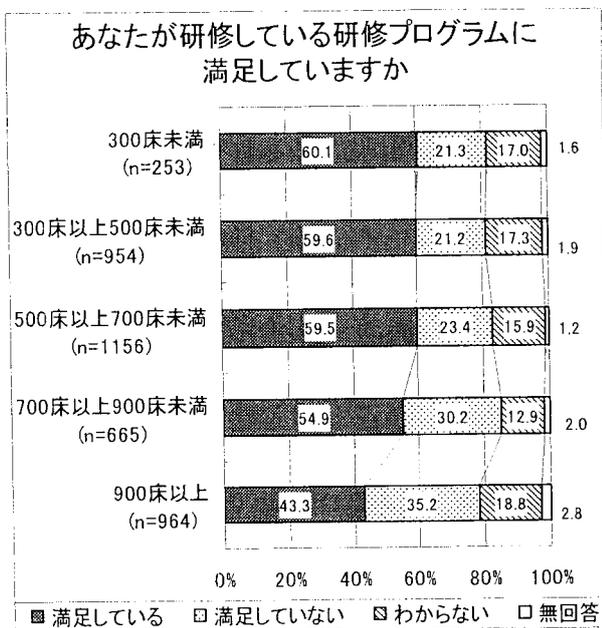
(3) 研修プログラムについての研修医の満足度は、大学病院より臨床研修病院において高い。

昨年度（2年次研修医）と比較すると、病床規模が小さい病院ほど満足度が高いという傾向が弱まっている。

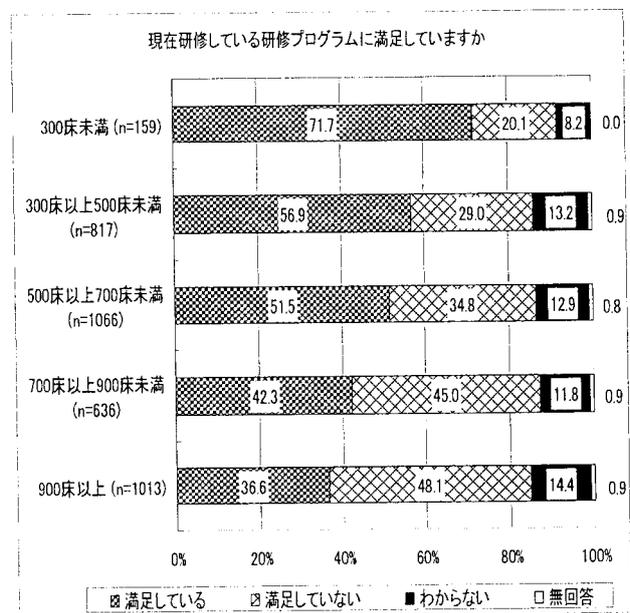
●平成18年度 研修プログラムについての満足度（臨床研修病院 / 大学病院）



●平成18年度（病床規模別）
研修プログラムについての満足度



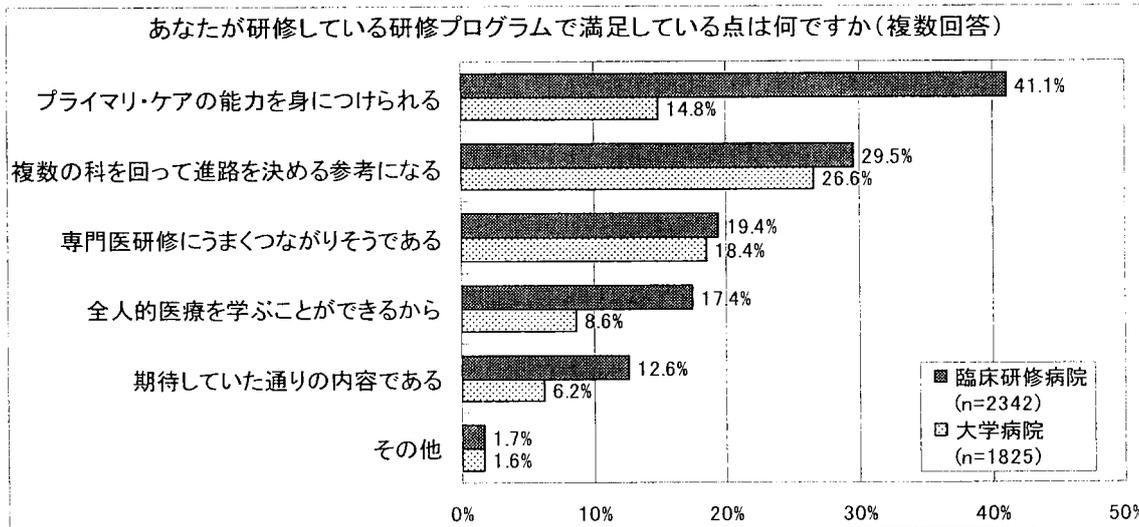
●平成17年度（病床規模別）
研修プログラムについての満足度



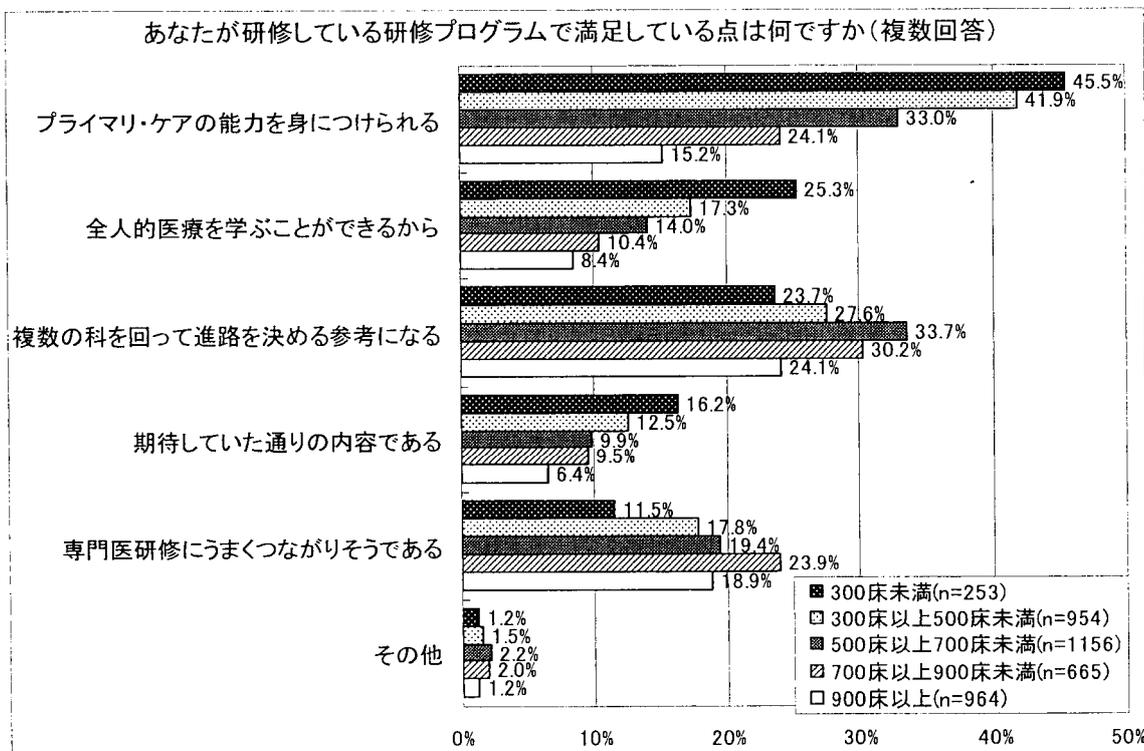
(4) 研修プログラムで満足している点、改善すべき点

1) 研修プログラムで満足している点は、臨床研修病院においては「プライマリ・ケアの能力を身につけられる」(41.1%)、「複数の科を回って進路を決める参考になる」(29.5%)、大学病院においては「複数の科を回って進路を決める参考になる」(26.6%)等が多い。また、特に病床規模の小さい病院においては「プライマリ・ケアの能力を身につけられる」が多い。

●平成18年度 研修プログラムで満足している点（臨床研修病院 / 大学病院）

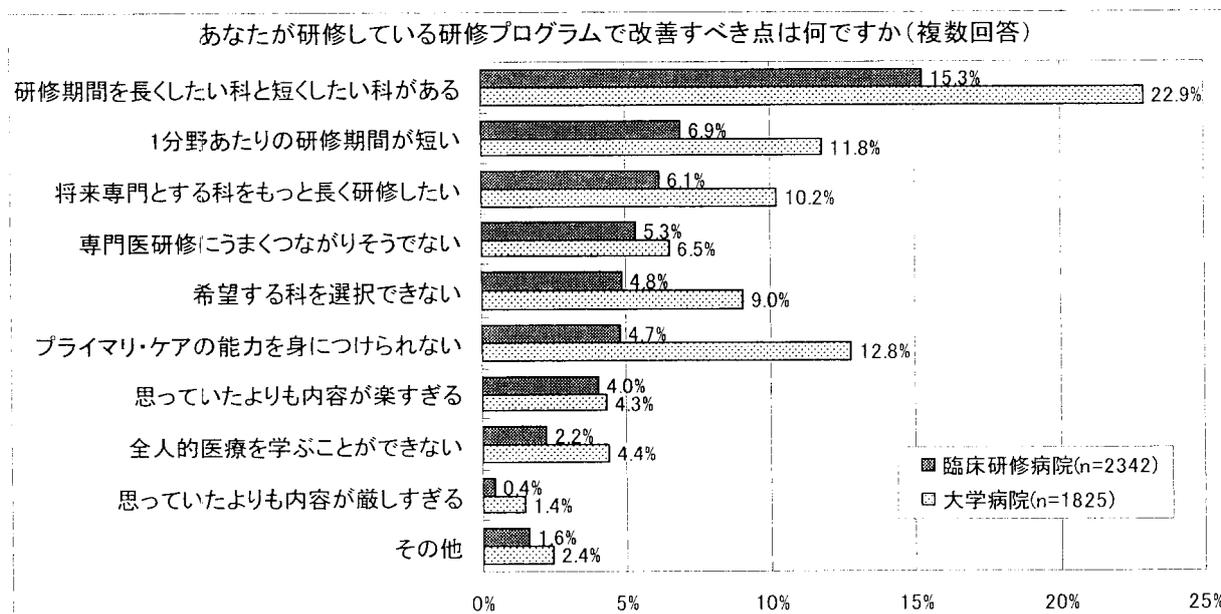


●平成18年度 研修プログラムで満足している点（病床規模別）

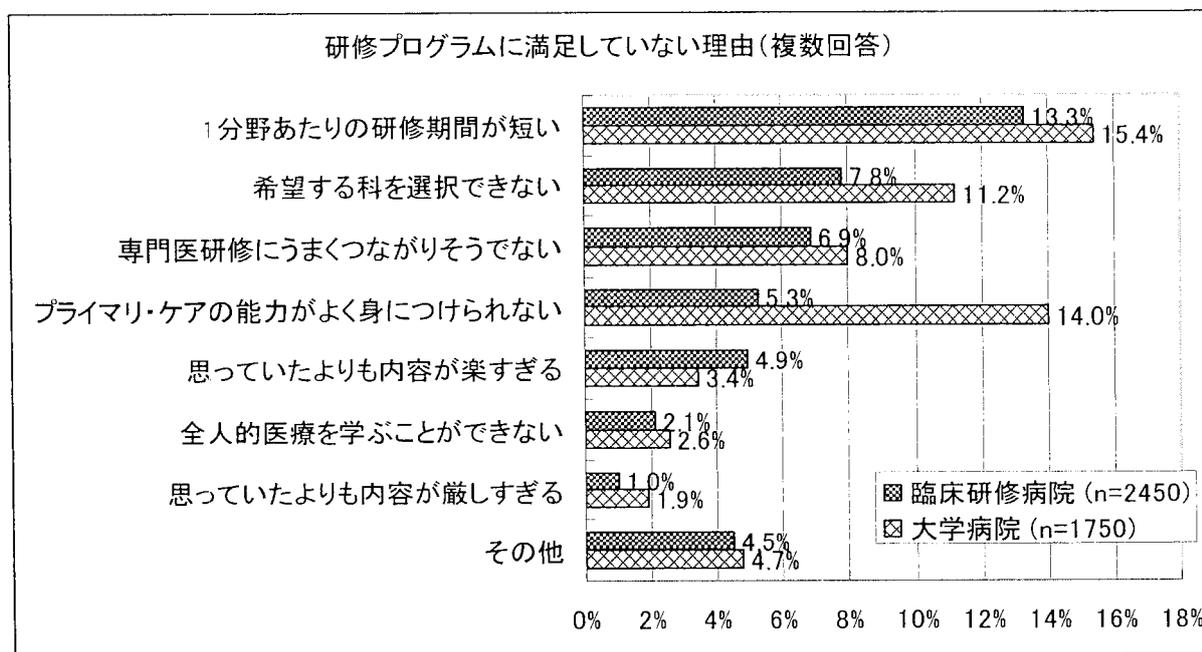


2) 研修プログラムで改善すべき点は、臨床研修病院においても大学病院においても「研修期間を長くしたい科と短くしたい科がある」(15.3%)等が多い。

●平成18年度 研修プログラムで改善すべき点 (臨床研修病院 / 大学病院)



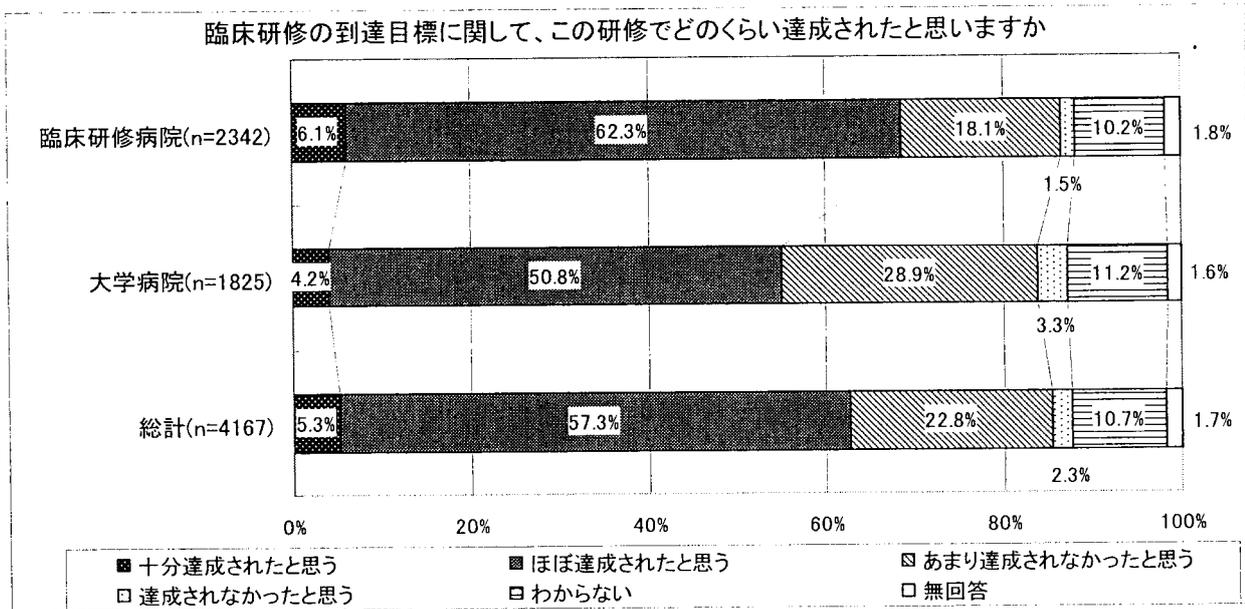
●平成17年度 研修プログラムに満足していない理由 (臨床研修病院 / 大学病院)



※平成17年度の調査票では、「満足していない」と回答した場合のみ理由を回答する形であったが、平成18年度の調査票では、すべての対象者が「改善すべき点」を回答する形となっている。

3) 到達目標が十分、もしくはほぼ達成されたとした研修医の割合は、全体では 62.6%、臨床研修病院では 68.4%、大学病院では 55.0%であった。

●平成 18 年度 臨床研修の目標達成度（臨床研修病院 / 大学病院）



2. 臨床研修修了後の進路について

(1) 研修後に専門としたい診療科

専門とする診療科が決まっていると答えた 3,847 人のうち、最も多い科は内科で 11.3%であった。また、小児科は 7.6%、産婦人科は 4.3%、麻酔科は 6.8%であった。小児科、麻酔科に関しては、20 代医療施設従事医師診療科別割合（平成 14 年）よりも高くなっている。

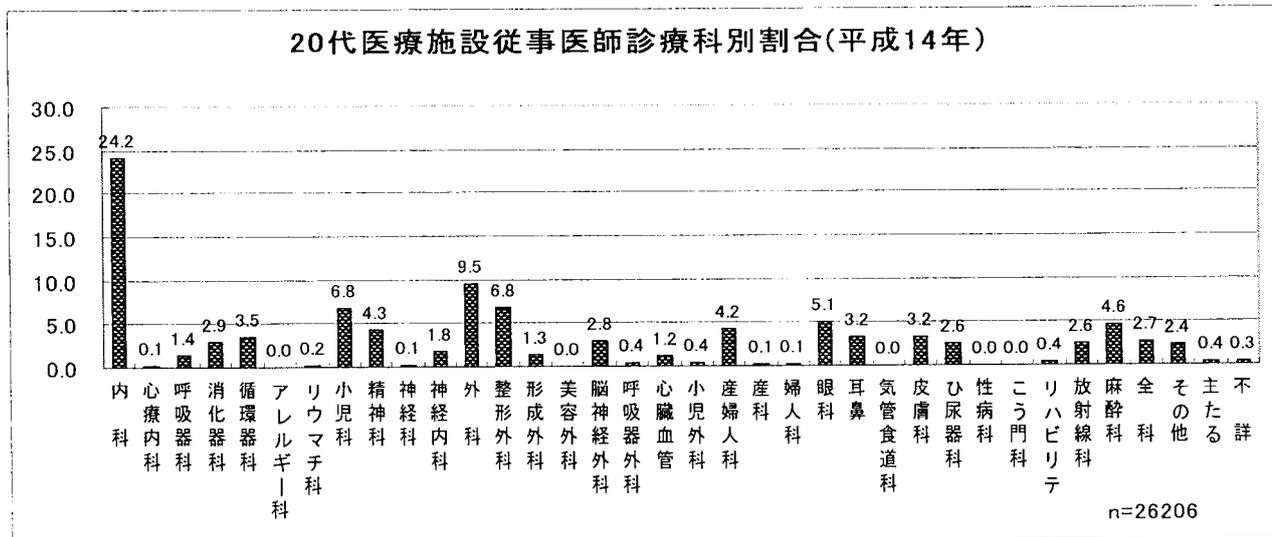
●平成 18 年度 研修後に専門としたい診療科

診療科	人数	割合			
内科	433	11.3%	神経内科	76	2.0%
小児科	293	7.6%	総合診療科	57	1.5%
外科	275	7.1%	心臓血管外科	52	1.4%
消化器科	268	7.0%	リウマチ科	29	0.8%
麻酔科	261	6.8%	呼吸器外科	29	0.8%
整形外科	240	6.2%	病理	28	0.7%
循環器科	213	5.5%	小児外科	26	0.7%
精神科	209	5.4%	リハビリテーション科	18	0.5%
産婦人科	166	4.3%	基礎系	17	0.4%
呼吸器科	139	3.6%	心療内科	12	0.3%
眼科	136	3.5%	緩和ケア部門	10	0.3%
皮膚科	128	3.3%	美容外科	9	0.2%
放射線科	117	3.0%	アレルギー科	8	0.2%
脳神経外科	94	2.4%	医療行政職	1	0.0%
泌尿器科	94	2.4%	その他	129	3.4%
耳鼻咽喉科	93	2.4%	無回答	14	0.4%
救命救急	93	2.4%	総計	3,847	100.0%
形成外科	80	2.1%			

●平成17年度 研修後に専門としたい診療科

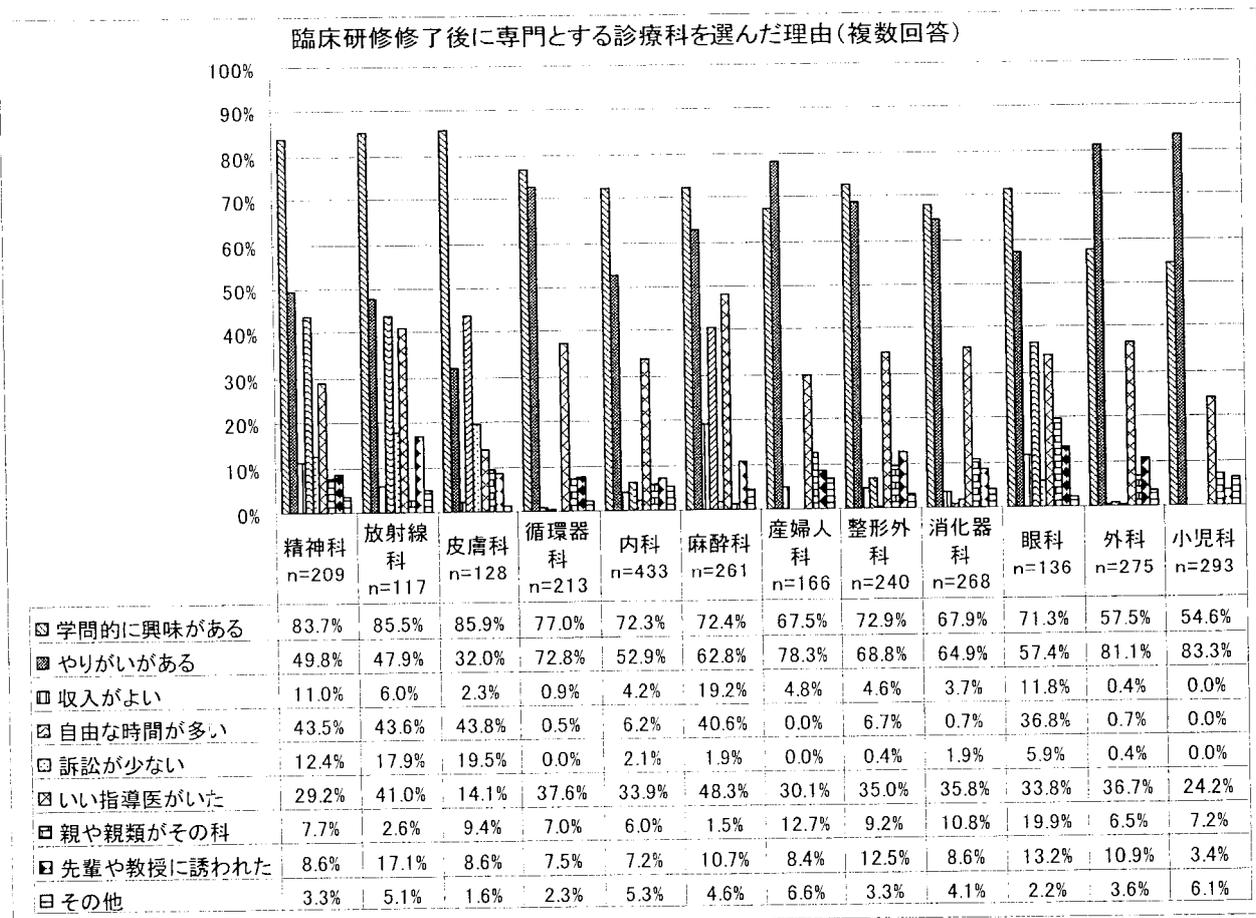
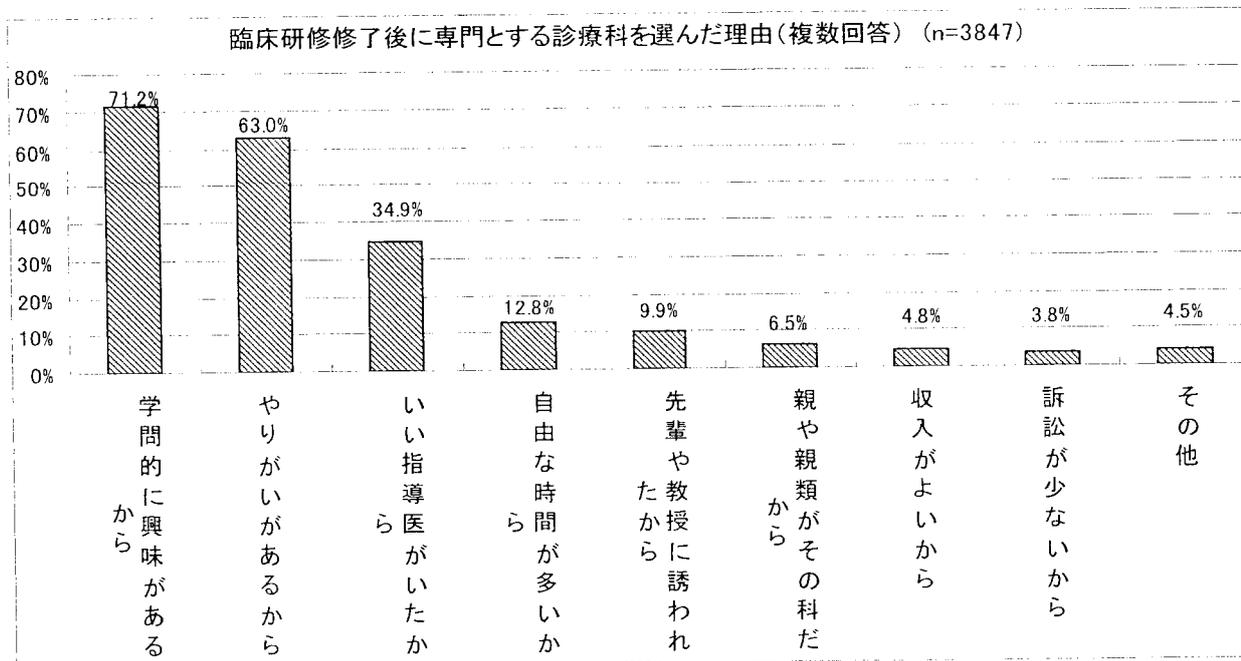
診療科	人数	割合			
内科	480	14.6%	脳神経外科	57	1.7%
外科	293	8.9%	心臓血管外科	46	1.4%
小児科	247	7.5%	総合診療科	25	0.8%
消化器科	217	6.6%	小児外科	16	0.5%
整形外科	213	6.5%	呼吸器外科	15	0.5%
循環器科	207	6.3%	リハビリテーション科	15	0.5%
麻酔科	191	5.8%	病理	15	0.5%
産婦人科	163	4.9%	基礎系	11	0.3%
精神科	142	4.3%	リウマチ科	8	0.2%
眼科	131	4.0%	心療内科	6	0.2%
皮膚科	131	4.0%	美容外科	6	0.2%
放射線科	100	3.0%	緩和ケア	5	0.2%
呼吸器科	92	2.8%	医療行政職	5	0.2%
泌尿器科	86	2.6%	アレルギー科	3	0.1%
耳鼻咽喉科	84	2.5%	その他	67	2.0%
形成外科	71	2.2%	無回答	18	0.5%
救命救急	70	2.1%	総計	3298	100.0%
神経内科	62	1.9%			

<参考>



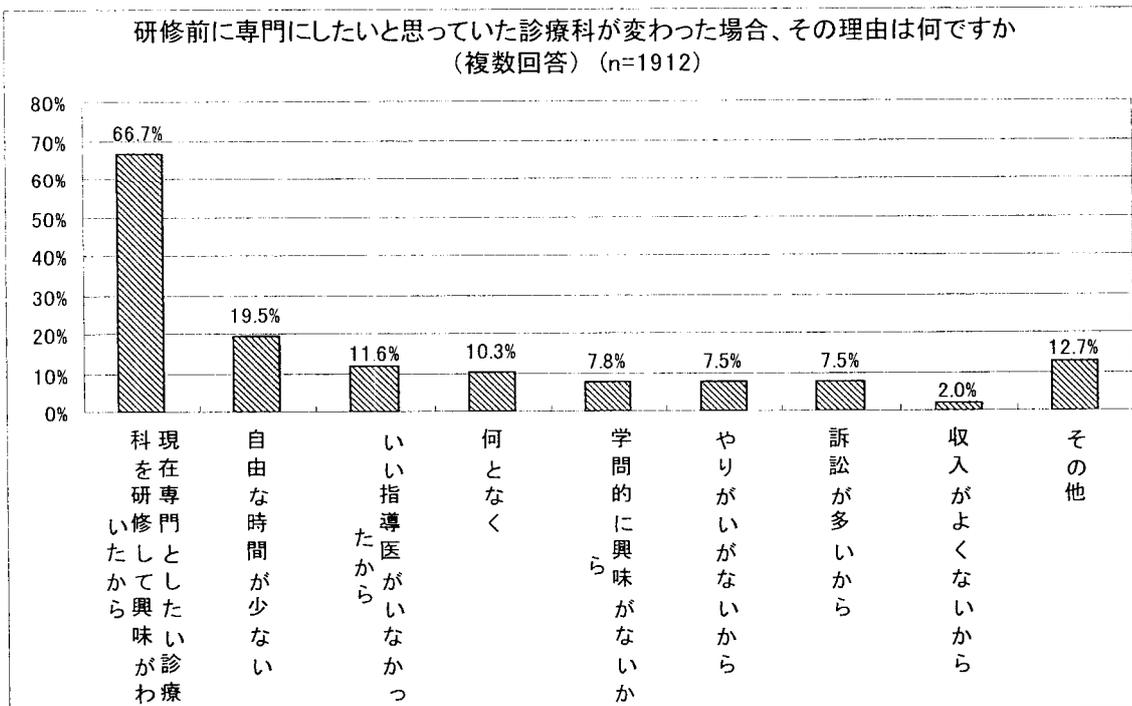
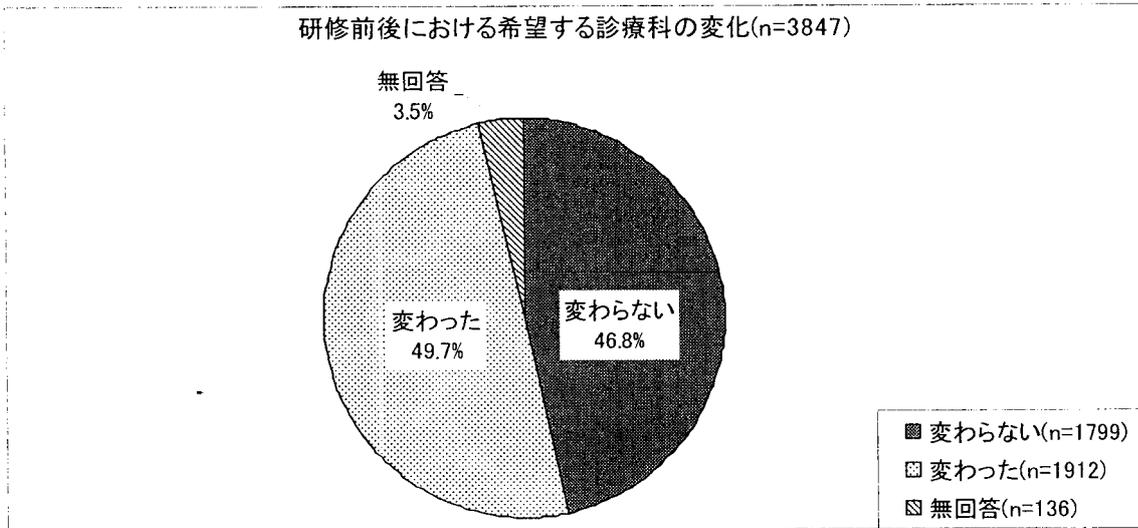
(2) 診療科を選んだ理由

「学問的に興味がある」(71.2%)、次いで、「やりがいがある」(63.0%)が多く、精神科、放射線科、皮膚科では「学問的に興味がある」が80%以上となっており、産婦人科、外科、小児科、循環器科では「やりがいがある」が70%以上となっていた。



(3) 専門としたい診療科の変化と理由

臨床研修の前後で将来専門とする診療科を変えた研修医は、1,912人(49.7%)であった。また、理由は「研修してみて興味がわいたから」(66.7%)が最も多かった。



(4) 性別にみた専門としたい診療科

女性医師の割合が高いのは、皮膚科(68.8%)、産婦人科(68.1%)、麻酔科(50.6%)等であり、女性医師の割合が低いのは、心臓血管外科(7.7%)、整形外科(10.4%)、脳神経外科(11.7%)等であった。

